

青洲高校 体験学習（こころバンク PR）

スマートフォンを操作してエピソードを寄せる青洲高の生徒たち。市川三郷町市川大門



地元企業の事業PR 青洲高2年生



青洲高商業科の生徒は、紙製品・化成製品製造のマルアイ（市川三郷町市川大門、村松道哉社長）を訪問し、同社の新規事業のPRに協力した。

2年生64人が14日に訪問。同社は家族や友人に宛てたメッセージを保管して人生の節目に公開する有料サービス「こころバンク」を今秋に始める予定で、「時空を超えた贈り物」（同社）

としての感動エピソードを募っている。生徒は担当者から事業について説明を受けた後、スマートフォンを操作して自身の経験などを投稿した。

ペットのハムスターとの思い出を寄せた横山海琉さんは「身近な企業を訪問させてもらい、新規事業に携わった経験を貴重に思う」と話した。

同社は生徒のエピソードを選考し、数点を見本として専用サイトで紹介する。担当者は「サービス開始前に生徒に協力してもらいありがたい。多くの人に利用してもらえよう、PRに役立てていく」と話した。

〈深沢澤〉